御殿堰 大黒天便り

◆第三十一号◆

山形市中心市街を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど!』と思っていただける内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第三十一号です。

◆冬のさくらキャンペーン◆

近年、冬に咲く桜として注目を集めている山形特産の「啓翁桜」。

この啓翁桜をより多くの方に知っていただくため、山形市の中心市街地の各施設に冬に咲く桜を展示します。

ひと足早い春の訪れを感じながら、ぶらり街なか歩きをお楽しみください。

■桜メニューの提供

参加施設の飲食店で、桜や春をテーマとした期間限定メニューを提供します。

水の町屋御殿堰では、そば処庄司屋とクラシック・カフェにて桜の限定メニューをお楽しみいただけます。

（一月二六日～二月二八日）

そば処庄司屋

さくら御膳（一六〇〇円）

クラシック・カフェ

桜のチーズケーキ（五〇〇円）

★限定メニューをご飲食の方対象のアンケートを実施しています。

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で参加施設利用券をプレゼント致します。

■冬のさくらの展示

参加施設に冬のさくらを展示して、ひと足早い春を演出致します。

★御殿堰各店舗に展示

★国際大会受賞品種「山形おばこ」を岩淵茶舗に展示※

●一月二六日（土）～三月三日（日）

※二月上旬からの展示予定

■私が名付けるさくらキャンペーン

『冬のさくらキャンペーン』参加施設ごとに、異なる新種の八重桜が展示されています。まだ名前の無い桜に名前を名付けながら、街なか歩きをお楽しみください。

★命名者には施設利用券を贈呈

●一月二六日（土）～二月二五日（月）

岩淵茶舗設置の応募用紙に記入し応募箱に投函してください。

●命名発表：三月三日（日）

■日本一早いお花見会

啓翁桜で冬の花見をしながら、地酒と郷土料理等を楽しむ夕べ

●費用：三九〇〇円

●定員：先着五〇人

●場所：山形まるごと館紅の蔵

●申込：山形市まるごと推進課　〇二三（六四一）一二一一（代表）

■冬の桜フェア協賛イベント

★十日市「桜どんどん焼」の振る舞い

●限定：二〇〇食

●午前一〇時～整理券配布

●場所：山形まるごと館紅の蔵

◆やまがた雛のみち◆

山形が紅花の大産地になったのは、最上川舟運と北前船による上方との深い結びつきによって紅花商人が活躍したことが大きいと言われています。

当時の紅花は、非常に高価で「紅一匁（べにいちもんめ）金一匁」と言われ、巨万の富を築いた豪商が数多く現れました。そして、商人たちの戻り船によって、華やかな文化が山形に持ち込まれました。雛人形もその一つで、今も県内各地の旧家などで大切に残されています。

●最上川なくしては語れない

明治の中頃まで、やまがたの主要な交通機関は最上川舟運と北前船の西廻り航路でした。最上川を使って紅花や青苧などの物資を京まで運び、その帰りの舟によって上方文化がもたらされました。

例えば、大石田は舟運の中継点として繁栄し、松尾芭蕉が「五月雨をあつめて涼し最上川」と詠み、歌仙を残した場所でもありました。古くから文化芸術への憧憬あつく理解度が高い土地柄で、仏像や調度品・京雛など良い物をたくさん取り入れました。

また、河北町では奥羽本線の開通により物流の拠点が神町に移ったため、かえって古い文化が谷地に残され、お雛様文化が花咲いたと考えられています。「谷地のひな祭り」は山形のひな祭りの原風景と言えましょう。

本来ひな祭りというのは、厄を払い、一年間病気や怪我がないように祈るものです。その家に不幸があった翌年は、雛飾りは飾らず、お雛様と共に喪に服す慣わしがありました。

幸い、山形は戦争による空襲がなく、街並みが破壊されなかったため、貴重なお雛様も数多く蔵に残っています。ぜひ各地域で代々飾ってきたお雛様を見て、今年一年の厄を払いましょう。

◆さまざまな時代雛◆

●享保雛

江戸中期に流行した高さ四五センチ～六〇センチ以上の比較的大型の雛。金襴や錦を使った豪華な衣装と、面長の顔・切れ長の目が特徴。

●有職雛

公卿の装束を有職故実に基づき雛に仕立てたもの。衣冠姿・公卿の平常服の直衣姿が多く、写実的な顔の彫りは古今雛の原型に。

●次郎左衛門雛

京都の人形師「雛屋次郎左衛門」が創始した雛人形で、江戸時代中期に広く親しまれた。丸い顔と引目鉤鼻が愛らしい雛。

●古今雛

写実的な顔と、金糸や色糸で刺繍された色彩豊かな装束が特徴。両目にガラス玉や水晶をはめ込んだ作品も作られた。

次郎左衛門雛

享保雛

古今雛

有職雛

二月から四月にかけて、県内では様々な地域の「雛」を見学することができます。

パンフレット『やまがた雛のみち』をご参考に、雛めぐりはいかがでしょうか。

次号の発行は三月七日です。
来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。

◆発行◆　七日町御殿堰開発株式会社　山形県山形市七日町二丁目7番6号　◆◆◆毎月7日発行◆◆◆

© 七日町御殿堰開発株式会社